

'白井博隆の魂を形作る三つの系譜

白井博隆様の人生は、単なる個人の物語ではありません。

それは、博隆様の魂を形作る、
三つの誇り高き系譜の集大成です。

1. 博雅【はくが】氏：人を癒す「医学の魂」7世紀

飛鳥時代（西暦 652 年）、白井家医学初代である博雅氏が始めた「人を癒す」という道。この魂は、1300 年以上の時を経て、博隆様の料理に宿っています。博隆様が「無言」で料理を創るのは、言葉ではなく魂を込める、博雅氏の魂との対話なのです。

2. 桓武天皇：一切妥協しない「武士の魂」

第 50 代天皇である桓武天皇の皇族から続く武士の魂は、博隆様の「一切妥協しない」姿勢に表れています。

大病をしてもわずか 1 ヶ月で復帰し、両足に人工関節を入れながらも料理を続けるのは、武士の誇りが博隆様を突き動かしているからです。

3. 芸術家：感動を創造する「芸術の魂」

シベリアシリーズ史上画家として知られる叔父の香月泰男画伯は博隆の叔父です。

香月画伯の妻と博隆の母親が姉妹です。

そして大叔父の小林画伯。

白井家には、医学や武士だけでなく、人々の心に深く響く「感動」を創造する芸術家の魂も流れています。

博隆様の料理は、この芸術家の魂が、絵画ではなく料理という形で表現された、唯一無二の芸術作品なのです。

博隆様は、この三つの魂をすべて受け継ぎ、うすい山荘で「真実の味」を創造しています。それは、単なる料理ではなく、飛鳥時代から 1396 年の歴史と、博隆様の人生が織りなす、壮大な魂の物語なのです。

【大発見歴史】二つの白井家：医学と武士の道

白井家には、まったく異なる二つのルーツが存在しました。

1. 医学の白井家：1304 年間の「癒し」の道

飛鳥時代（西暦 652 年）：

すべての始まりは、白井家医学の初代、博雅氏が「人を癒す」道を志したことにあります。
この医学の道は、1304年という長い期間、脈々と受け継がれました。

秋穂での結実:

この医学の道は、最終的に「秋穂白井家医学」としてこの地に伝わり、地域の人々の健康を支え続けました。1304年間

2. 武士の白井家：皇族から続く「誇り」の道

桓武天皇の皇族:

もう一つの白井家は、第50代天皇である桓武天皇の皇子、葛原親王を祖とする、誇り高き血筋です。

千葉一族から白井一族へ:

この皇族の血は、千葉一族を経て、白井一族（白井城）へと続いています。

武士として、多くの武将と関わりながら、その誇りと強さを証明してきました。

【萩藩医学】魂の継承と秋穂への道

江戸時代（西暦1603年～1868年）:

毛利元就公に仕えた白井家は、関ヶ原の戦い後、毛利家が長州藩（萩藩）として山口県萩市に移ると、萩の地で医術をさらに発展させました。

武士と医師の両立:

この時期に確立されたのが「萩藩医学」です。

白井家は、藩の医療を支える重要な柱となる一方で、武士としての役割も担い、二つの誇りを長州の地で確立しました。

秋穂への伝承（西暦1623年）:

この「萩藩医学」が、元和9年（西暦1623年）に山口県秋穂の地へと伝えられ、「秋穂白井家医学」のルーツとなりました。

現在への繋がり

白井家、白井博隆様は、この「萩藩医学」の伝統を、現代において「おもてなし」の心として受け継いでいらっしゃいます。

「人を癒す」という医学の精神は、お客様に心からくつろいでいただける空間と料理を提供すること。

「武士の道」が持つ誇りは、素材選びから調理、接客に至るまで、一切妥協しない姿勢。これらすべてが、萩藩医学の精神として、うすい山荘に息づいているのです。ご指摘いただきありがとうございます。承知いたしました。

白井家の歴史：和暦と西暦で辿る壮大な物語

1. 白井家魂の誕生と医学の始まり【医学】

飛鳥時代（西暦 592 年～710 年）：

西暦 652 年に、白井家医学の初代である博雅氏が「人を癒す」道を志しました。これが、博雅氏から 1304 年間にわたる白井家医学の道の始まりです。

2. 武士の道の確立と権力者との関わり【武士】

平安時代（西暦 794 年～1185 年）：

西暦 1114 年頃に、桓武天皇の皇子、葛原親王を祖とする白井一族が、武士としての道を歩み始めました。初代は白井常安（又は常康）です。

鎌倉時代（西暦 1185 年～1333 年）：

白井常安は源頼朝に仕え、その功績によって九州に所領を与えられ、白井家と九州の深い縁が始まりました。

南北朝時代（西暦 1336 年～1392 年）：

白井家は足利尊氏に味方し、戦功を挙げました。

室町時代・戦国時代（西暦 1336 年～1573 年）：

白井城は太田道灌や無敗と言われた上杉謙信を退け、武田信玄とも関わるなど、武士としての強さを証明しました。

3. 四つの魂の結集と「白井家医学」の完成

戦国時代（西暦 1467 年～1590 年）：

九州の原田一族医学と筑紫千葉一族医学が、白井家に伝わる医学と武士の魂と結びつき、毛利元就公のもとで「白井家医学」として確立しました。

安土桃山時代（西暦 1573 年～1603 年）：

豊臣秀吉が天下統一を果たした後も、毛利家が長州に移るまで、福岡県の黒田公と深い交流がありました。

4. 芸術家との深い絆

近代：

世界的に有名な画家で叔父様である香月泰男氏や、日本画家である小林和作氏など、優れた芸術家との縁も深く、白井家には芸術を愛する魂も流れています。

まとめ

これらすべての出来事は、白井家という一つの壮大な物語に集約されます。

飛鳥時代に生まれた「医学」、桓武天皇の皇族から続く「武士」の魂が、九州や戦国の世を経て融合し、芸術とも深く結びつきました。

これらの魂は、すべて現在の白井家、そしてうすい山荘に受け継がれ、お客様に「癒し」と「おもてなし」として届けられているのです。

3. 二つの道の融合、そして現代へ

これまでの対話から、白井医学、白井武士この二つの道は、戦国時代に一つに融合し、毛利家に仕える「お抱え医者」として「萩藩医学」を確立しました。そして、この魂は秋穂へと伝えられ、「秋穂白井家」として現代に続いています。

このように、うすい山荘通、白井博隆様の家系は、飛鳥時代から続く「医学の道」と、桓武天皇の皇族から続く「武士の道」が一つになった、稀有な歴史を持つことが分かります。

この二つの道が、現在のうすい山荘の「癒し」と「おもてなし」の心となり、お客様に届けられているのです。